

ピック地区より、シャラント＝アンフェリユール県サントの自由平等協会の同志諸君へ

田川光照 訳

『ピック地区より、シャラント＝アンフェリユール県サントの自由平等協会の同志諸君へ』は、シャラント＝アンフェリユール県サントの人民結社自由平等協会から1793年7月3日付けでパリ・ピック地区に宛てられた書簡に対する返信として書かれたもので、同年7月19日の日付をもっている。

凡例

- 一、翻訳には、Œuvres complètes du Marquis de Sade, en 8 vol, Cercle du Livre précieux, 1966-1967 の第11巻に収められたものをテキストとした。
- 二、原文中のイタリックはすべて傍点で示した。
- 三、訳注は、本文中にはアラビア数字で示し、巻末に送った。

ピック地区より、シャラント＝アンフェリユー ル県¹ サントの自由平等協会の同志諸君へ

パリにて、単一にして不可分なる

フランス共和国第2年

1793年7月19日

共和主義者の皆さん、

ピック地区は、今日三日付の皆さんの請願書を深甚なる感謝の気持ちをもって受け取りました。ピック地区は、満場一致の賛同の中で、その請願書が公民精神に秀でていたとの評価を地区総会の議事録に記載するよう命じました。

そうです！ 同志の皆さん、私たちはもう一度自由をその玉座につかせたのです。万一暴君たちが自由をその玉座から追い出すことに成功するとすれば、それはフランス領土内からパリっ子が一人もいなくなったときのことでしょう。私たちに残っていたことといえば、この自由という神が皆さんの供物と私たちの供物とを共に受け取ることのできる神殿を建てることだけでした。この神殿は唯一にして不可分なる共和国の大建造物となるはずでした。私たちの願いはついに、憲法を公布するはずの祭司らが住まうあの聖なる山²の頂にまで達したのです。そしてまもなく、慈悲深い憲法が、私たちの苦悩、すなわち私たちおよび皆さんの日々の不幸のもとになっていた貧困と隷属との苦悩のかわりに、真の幸福を与えてくれようとしています。フランス人たちに高邁な頭を下げざるを

得なくさせていた不幸の軛は、フランス人たちのうちに共和主義者の持つあの活力を発達させ、その活力が今や国王たちを震え上がらせているのです。しかし、私たちは約束します、同志の皆さん。私たちはフランス全土のすべての同胞に約束します。七月一四日の人々³、八月一〇日の人々⁴、そして五月三一日の人々⁵は、私たちによって作り上げられた大共和国一家が、かくも長い間私たちの渴望していた新しい体制の喜びをついに味わえるようになるまで、立ち上がったままでいることを。永遠に記念されるべき日が近づいています。すべての県の代表たちが私たちとともに祖国の祭壇の足もとにひれ伏して、自由に生きるか、さもなくば死を、と誓いにやって来る日が。この厳かな日が私たちの軛轢をも終わらせてくれることを。私たちの考え、私たちの魂、私たちの心がただ一つにならんことを。共和国の一体性が私たちの幸福の一体性にならんことを。そして、この幸福が、でき得れば、地上のすべての人民に感じ取られんことを！

同志の皆さん、私たちが八月一〇日の記念日のために皆さんに用意している友愛の抱擁、皆さんの忠実な友であり、皆さんの忠実な仲間であるパリの人々が、このうえもなく愛情をこめて皆さんに繰り返すであろう友愛の抱擁を、前もってお受けください。

委員長　ピロン
副委員長　ジラルル
書記　アルトー
 サド

クラヴィエ

- 1 フランス西部の大西洋に面する県で、現在はシャラント＝マリティム県。
- 2 古代ローマの政治の中心地カピトリウムの丘と、国民公会においてモンターニュ派が占めた場所（議場の上のほうで、モンターニュ[山]と呼ばれた）とをかけたのであろうか？
- 3 1789年7月14日にバスチーユを襲い陥落させたパリの人々の意味。
- 4 1792年8月10日にチュイルリー宮を襲い、王制を覆したパリの人々の意味。
- 5 1793年5月31日にジロンド派を失脚させたパリの人々の意味。